(6)　音を借りてきた漢字……仮借文字

音を借りて表わす

金額を書くとき、「金参万円」などと書くことがあります。参は、「参加」「参拝」の参ですが、同じ音の三の意味に使ったわけです。

このように、漢字のほんとうの意味を捨てて、他のことばの意味を表す使い方をしたばあい、これを「仮借文字」といいます。仮に借りて使いという意味です。

「三」のばあいは、ほんとうの漢字があるのですが、字画がかんたんなので、「五」に直すこともできる心配があるので、複雑な「参」を借りてきました。しかし、言葉はあるのだが、それを表わすうまい字が作れない、というばあい、本当にこの仮借文字の価値が出てきます。

十　一年　ジュウ　とお

この字は で、針に糸を通した形です。「はり」という意味の字です。ところが、「じゅう」という数を表わすのに、うまい漢字が作れなかったので、「はり」という意味の十の字を借りて、これを表わしたのです。重は仮借文字です。「はり」のためには、別に金を加えて、「針」という字を作りました。

針　シン　はり

十には、「シュウ」「シン」の二つの音があり、十が、数のジュウにとられたために、「はり（シン）」のために、のちに作られた字です。

外国語は仮借文字で表わす

外国のことばをそのまま表そうとすれば、当然、仮借文字になります。仏教用語の、「仏（ブツ）、釈迦（シャカ）、夜叉（ヤシャ）、修羅（シュラ）、般若（ハンニャ）、和尚（オショウ）」などの文字はみな仮借です。漢字の意味には関係ありません。

日本でも戦前は、外国の地名・人名をつぎのように書き表わしましたが、これも仮借です。

伊太利（イタリア）巴里（パリ）英吉利（イギリス）亜細亜（アジア）華盛頓（ワシントン）天婦羅（テンプラ）珈琲（コーヒー）瓦斯（ガス）

象形・指事・会意・形声の四つに、転注・仮借の二つを加えて、これを六書（りくしょ）と呼んでおります。前の四つが文字の作り方から分類したもので、あとの二つは、使い方のうえでできた分類です。